

路傍の 植物誌

第2回・キュウリグサ

ムラサキ科・きゅうりぐさ属【胡瓜草／*trigonotis peduncularis*】

4月17日、宮前三丁目にて撮影

◎適食

本当に目立たない大変繊細な草。何ともカワイイ、この春初めて、しかも自宅マンションの敷地内で見つけた花です。径2ミリにも満たない小さな花だし、ハコベやナズナなどの草の群れに隠れて、ほとんど気づかれることもなさそうですが、花を拡大してみると、やや白みを帯びた瑠璃色の、上のイメージの通りとてもきれいな姿をしています。同じムラサキ科のわすれな草の花によく似ていますが、遙かに小さい。葉は卵形で互生し、高さ（長さと言った方が正確か）は10～40cmにもなる越年草。徐々に細長くなる針金のような花茎は開花するにつれて、下向きに垂れ下がっていた花序が、ゼンマイがほどけるように伸びてゆく。



キュウリグサ（頭花・拡大）

キュウリグサの名の通り、この草を揉んでみると確かにキュウリに似た香りが微かに匂う。タビラコとも言われるようですが、春の七草としてのホトケノザたるタビラコは、第一回目で紹介したオニタビラコであって、これではない。しかし偶然とは言え、第一回のオニタビラコの次ぎに来るものとしては、これほどふさわしいものはないように思えます。



キュウリグサ（全体）

【食べてみる】

残念ながら、まだ試食していません。味の方は追ってご報告したいと思います。